

春季特別展

広重と東海道展－行書東海道・隸書東海道を中心に－



第79回

江戸幕府が慶長9年（1604）に五街道を制定してから約230年後の天保4年（1833）頃に歌川

広重（1797～1858）は、「東海道五拾三次之内」（大判55枚揃 一般に保永堂版東海道という）を開板します。当時の街道は物資の輸送や参勤交代の大名ばかりでなく、庶民が観光を兼ねた神社仏閣のお参りなどが盛んに行われていました。ただし旅行に行けない人たちは浮世絵師が描いた作品を見ながら旅行したつもりになりました。特に広重が描いた「東海道シリーズ」は見る者を引きつけ、本当に旅をした気持ちになったようです。

今回紹介する「東海道五十三次之内 日本橋」は画題が行書体のため一般に「行書東海道」と呼ばれています。出板は天保12年（1841）頃で、版元は江崎屋辰蔵・同吉兵衛です。

この作品は、日本橋を南詰から北詰を見た景観で橋を中心にやや右側から、視点を低く取り構図の中心に橋のアーチの中央がくるように設定されています。橋の手前の左側には高札場があり、右側には罪人の晒し場になっていました。画面手前に旅人と天秤棒を担いだ魚売り、橋上には身分の高い人が乗る引手駕籠と供の者がいます。

橋の高欄には擬宝珠が付けられ、幕府が橋架し管



「東海道五十三次之内 日本橋 曙旅立之図」

（江崎屋辰蔵・同吉兵衛 間判）

理している事を意味しています。広重の街道絵の特徴は、春夏秋冬、時刻、気候など景観を構成する為に必要なあらゆる素材を用いて美的効果を十分に計算し作品に仕立てていますが、日本橋だけは必ず晴れた朝立ちの場面が描かれています。

馬頭広重美術館長 市川信也

【会 期】 前期 4月21日（土）～5月20日（日）
後期 5月26日（土）～6月24日（日）

【開館時間】 午前9時30分より午後5時まで
（但し入館は午後4時30分まで）

【ミュージアムトーク】 4月21日（土）午後1時30分～

【休 館 日】 月曜日

【入館料】 大人 700円（630円）
高・大学生 400円（360円）

※（ ）は20名以上の団体料金

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

ミニギャラリー 作品募集！

あなたの作品を出展してみませんか？

写真、絵画、絵手紙などの作品をお待ちしております。

申し込み・問い合わせ：
企画財政課広報広聴係

☎0287-92-1114

ミニギャラリー 平成23年度那珂川町観光写真コンテスト 受賞作品



入選「里山に春」

栃木 勇さん（宇都宮市）



入選「春爛漫」

青木信夫さん（小川）